

2026年度（令和8年度）4教科指導重点目標

{ 国語 }

テーマ 「言語活動を通じて、読解力・表現力を育成する」

1. テーマへの取り組み

①表現力を付ける

- ・一言日記（低学年）
- ・新出漢字を使った短文づくり（中・高学年）
- ・学年に合った読書の推奨
- ・自分の思いを言葉で表現できるように意識していく。
- ・帰りの会でスピーチを行う。

例 1分間スピーチ、本の紹介、言葉のスピーチ、ニュースの紹介

②読解力を付ける

- ・ニュースの紹介・・・内容を要約し、自分の考えをメモの形式で書けるようにする。

③語彙力を付ける

- ・読書の推奨
- ・辞書の積極的活用（3～6年）

④読書指導

- ・図書室を積極的に活用する。
- ・国語担当者や担任が本の読み聞かせをする。

2. 副教材

- ・漢字ドリル（全学年）
- ・小学生ワーク（4年）
- ・My Quest（5，6年）
- ・でる順過去問 ことわざ・語句・文法（6年）

{ 社会 }

テーマ 「基礎・基本の学習の確実な定着と発展学習を通して、自ら学ぶ意欲を育て、幅広い知識を習得する」

- ・基礎基本の定着を確実に図る。
- ・授業の中に社会科関連の豆知識を入れ、興味関心を高める。
- ・資料から読み取る力、資料を活用する力を付ける。
- ・本物を見て触れることにより学習意欲を高める。

1. 各学年で指導する発展学習内容

3 学年・・・地図記号を覚え、全国の都道府県名をひらがなで書けるようにする。

4 学年・・・全国都道府県名、県庁所在地名、8 地方名を漢字で書く。

(学習進度は教科書の進度で千葉県、成田市の学習をする。)

5 学年・・・ICT 機器を活用し、知識を増やす。(モノグサ「おぼえるん」)

6 学年・・・ICT 機器を活用し、知識を増やす。(モノグサ「おぼえるん」)

1 2 月 (付属中入試前に歴史分野を終わらせる。)

2. 社会科校外学習 (予定)

3 学年・・・学校周辺探検、スーパーマーケット、日本食研工場見学、
房総のむら、成田消防署

4 学年・・・成田富里いずみ清掃工場、リサイクルプラザ、銚子漁港、醤油工場

5 学年・・・製鉄所

6 学年・・・国会議事堂等、歴史博物館

{ 算数 }

テーマ 「基礎基本の定着と、思考力の育成」

～互いに学び合う活動を通して～

1. 一人一人の児童の実態に応じたきめ細やかな指導を行う。
 - 1～3年生・・・TT（ティームティーチング）指導
 - 4～6年生・・・少人数指導
2. 個別最適な学び
 - ・一斉授業と個別学習を取り入れた単元構成
 - ・一人一人の学習進度、学習到達度に応じた教材等の柔軟な設定
⇒基礎基本の定着と発展力を養う。
3. 共働的な学び
 - ・「比較検討」：お互いの考えを共有し合う中で、考えを深化させたり、自分の考えが相手に伝わるように話す力を向上させたりする。
 - ・「自力解決」：よい解決方法を見出せない児童が、友達の考えを聞くことで思考の一助とし、自分の考えを持つことができるようにする。
 - ・「適用」：早く終わった児童が教え役となり、終わっていない児童への助言を行う。
★4～6年生は、iPadを有効活用する。
4. 毎週2回の「計算タイム」を活用し、計算力の向上を図る。
5. 副教材を活用して、基礎基本の定着と発展力を養う。
 - 1～3年生：ぶんけい「算数の力」、新学社「くりかえし計算ドリル・らくらくノート」
 - 4年生：ぶんけい「くりかえし計算ドリル」、受験研究社「7・6級計算トレーニング」
 - 5年生：学図「NEW小学生ワーク文章題・図形」、受験研究社「5級・4級計算基本トレーニング、Gakken「中学入試 算数のつまづきを基礎からしっかり[文章題]」
 - 6年生：学図「NEW小学生ワーク文章題・図形」
受験研究社「3・2級計算基礎基本トレーニング」

{ 理科 }

テーマ「自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することを目指す。」

1. 今年度の重点

○科学的な思考過程を踏まえた学習活動を展開する

①問題を見つける・立てる ②予想と計画 ③実験・観察・調べ活動

④結果から考える ⑤まとめる

- ・実物、本物に触れる。実際にやってみることを大切にする。
- ・生活経験と結び付けて考えさせる。
- ・実験の手順、観察の視点等をしっかりと理解させてから取り組ませる。
- ・必ず予想を立てさせ、実験結果との比較検討を行う。
- ・自分の言葉でまとめる。

○ICT機器の有効活用を推進する

- ・視聴覚教材（デジタル教科書・NHK for school）の活用
- ・iPadを活用した調べ活動、実験観察の記録（観察カード・新聞等）の推進

※3・4年生は、学年配当の単元を、時間をかけ丁寧に指導する。実験や観察・観測を充実させ、実体験を伴った理解を目指す。中学年では、基礎基本の確実な定着と、理科学習の流れや科学的なものの見方・考え方の素地を養うことに重点を置く。

※5・6年生は、入試対策を授業の中で行う。

2. 力をつけるための問題集・副教材を使用する

5年生・・・ものぐさ「おぼえるん」

6年生・・・ものぐさ「おぼえるん」

中学入試 理科のつまずきを基礎からしっかり（問題集）

3. 必要に応じて、児童個々に観察・実験セットを購入させ、より効果的な学習活動を目指す。